

# 令和5年度八万南小学校総括評価表

重点課題	重点目標	自己評価		学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策
		評価指数と活動計画	評価	学校関係者の意見	
I 確かな学力の育成 ・聞く態度の育成 ・学習意欲の高揚 ・ICT教育の推進 ・読書活動の推進 ・「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った授業改善 ・自分の思いや考えを伝え合う力の向上 ・家庭学習の習慣化 ・基礎・基本の徹底 ・個に応じた指導の充実	①話を黙って最後まで聞ける態度を育成する ②学ぶ楽しさやわかる喜びを感じ主体的に学習に取り組むことができる態度を育成する。「わかった」「できた」「もっとやりたい」等 ③タブレット端末等を有効活用した学習の推進を図る。 ④思考力・判断力・表現力等を育む言語活動を充実させる。 ⑤家庭学習（家庭との連携）なども含めた「学ぶ習慣づくり」を定着させる。 ⑥T・T指導等、個に応じたきめ細かな指導の充実を図る。 ⑦読書活動等を通して、感性を磨き、読解力・表現力・創造力を高める。	<b>評価指数</b> ①自己評価「話の聞き方のルールを徹底している。」90%以上 児童アンケート「わたしは、先生や友達の話を見最後まで黙って聞いている。」85%以上 ②自己評価「子どもが主体的に学習に取り組めるような課題の設定や発問の工夫を行っている。」90%以上 児童アンケート「わたしは、授業で学習したことをよく理解している。」85%以上 保護者アンケート「学校は、学力が向上するような取り組みをしている。」80%以上 ③自己評価「タブレットを効果的に活用した実践を行っている。」90%以上 児童アンケート「タブレットや大型テレビをつかった学習は分かりやすい。」85%以上 ④自己評価「個人学習やグループ学習等の自分の考えを表現し合う場を設定している。」90%以上 児童アンケート「わたしは、友達の意見を聞いたり、自分の考えや意見を分かりやすく伝えたりすることができている。」85%以上 ⑤自己評価「毎日、宿題や自主学習をチェックし、最後の直しまで確認している。」90%以上 児童アンケート「わたしは、毎日家庭学習している。」85%以上 保護者アンケート「お子さんは、家庭学習によく取り組んでいる。」80%以上 ⑥自己評価「個々の特性を理解し、指導方法の工夫を行っている。」90%以上 ⑦自己評価「読書活動の時間を確保し、読み聞かせを充実させている。」90%以上 児童アンケート「わたしは、本をよく読んでいる。」85%以上 保護者アンケート「お子さんは、よく本を読んでいる。」80%以上	<b>評価指数の達成度</b> ①自己評価「話の聞き方のルールを徹底している。」100% 児童アンケート「わたしは、先生や友達の話を見最後まで黙って聞いている。」93.3% ②自己評価「子どもが主体的に学習に取り組めるような課題の設定や発問の工夫を行っている。」100% 児童アンケート「わたしは、授業で学習したことをよく理解している。」88.5% 保護者アンケート「学校は、学力が向上するような取り組みをしている。」81.4% ③自己評価「タブレットを効果的に活用した実践を行っている。」44.8% 児童アンケート「タブレットや大型テレビをつかった学習は分かりやすい。」86.3% ④自己評価「個人学習やグループ学習等の自分の考えを表現し合う場を設定している。」96.6% 児童アンケート「わたしは、友達の意見を聞いたり、自分の考えや意見を分かりやすく伝えたりすることができている。」83.6% ⑤自己評価「毎日、宿題や自主学習をチェックし、最後の直しまで確認している。」96.6% 児童アンケート「わたしは、毎日家庭学習している。」87.8% 保護者アンケート「お子さんは、家庭学習によく取り組んでいる。」72.9% ⑥自己評価「個々の特性を理解し、指導方法の工夫を行っている。」100% ⑦自己評価「読書活動の時間を確保し、読み聞かせを充実させている。」72.4% 児童アンケート「わたしは、本をよく読んでいる。」58.4% 保護者アンケート「お子さんは、よく本を読んでいる。」51.0%	<b>総合評価</b> (評定) B (所見) ①については、話の聞き方のルールは概ね身につけているため、さらに徹底できるようにする。 ②については、主体的に学習に取り組めるように工夫しており、概ね授業内容を理解している。 ③については、児童はタブレットを使った活動に意欲的に取り組んでいるが、効果的な活用や実践については課題がある。 ④については、様々な学習形態で表現し合う場を設定したが、分かりやすく伝えることに課題がある。 ⑤については、保護者の家庭学習に対する意識の低さが明らかになった。 ⑥については、個々の特性に合った指導方法の工夫を進めることができている。 ⑦については、読書時間の確保や読み聞かせについて、より充実させるための工夫が必要である。	・読書の時間の少なさが気になる。小学生の頃の読書体験は夢や希望をもったり、知らない言葉や世界を知ったりする等心の中にたくさんの引き出しを持たせてくれるものだと思う。子どもたちに本をよく機会を増やすことができるよう工夫するとよい。 ・八南小は、読み聞かせグループ「ピーターパン」が活躍してくれているので感謝したい。読み聞かせも学校で充実させてほしい。 ・話の聞き方のルールを徹底し、概ね定着してきているが、話し手を意識して聞いていない児童もいる。相手を見たりうなずいたりするなど、話し手を意識して聞けるようにする。 ・個々の特性やつまづきを把握し、個に応じた課題の設定や指導方法の工夫を行う。 ・タブレットの効果的な活用に向けて、研修を実施していく。 ・ペアワークやグループ学習など、様々な学習形態の活動を多く取り入れ、表現の機会を多く取り入れるようにする。話型を活用し、相手に自分の考えを伝えられるようにする。 ・子どもが意欲的に取り組んでいる家庭学習に対して、保護者が点検したりできていることを褒めたりしてもらえるように家庭への啓発をこまめに行う必要がある。 ・継続して個々に合った指導方法の工夫を行っていく。 ・学校での読書時間の確保だけでなく、週末読書など家庭での読書時間の確保についても啓発していく。
		<b>活動計画</b> ①聞き方のモデルを示し、ルールを徹底する。 ②各授業における課題設定(めあて)や発問を工夫する。 ③効果的なタブレットの活用についての研修の実施と系統的な学びを実践する。 ④根拠や理由を明らかにしながら自分の考えを書いたり、表現したりする場面を設定する。 ⑤家庭学習の手引きに加え、学習の進め方のモデルや文例の提示等を行い、自主的・効果的な学	<b>活動計画の実施状況</b> ①聞き方のモデルを教室に掲示し、ルールを徹底することができた。 ②各授業における課題設定を行い、児童が主体的に学習に取り組めるように発問を工夫した。 ③効果的なタブレットの活用について研修の実施を行った。授業の中で効果的なタブレット活用、系統的な学びの実践を行っている。 ④話型を示すことで、相手に伝わる話し方を意識した。学習形態を工夫し、様々な場面で自分の考えを表現できるように取り組んでいる。 ⑤家庭学習の手引きの見直しを行い、各学年の実		

		びを推進する。 ⑥合理的配慮の実践等、個に応じたきめ細やかな指導を工夫する。 ⑦読書への意欲付けを意識した読書活動や読み聞かせを実施する。	態に合わせて、家庭学習や自主学習の進め方のモデルの提示を行った。 ⑥合理的配慮について研修を実施、教職員間で連携を図りながら指導の工夫に取り組んでいる。 ⑦朝の活動の時間や図書室の利用時間を設け、読書時間を確保したり、読み聞かせを行ったりした。委員会を中心に「読書郵便」を実施し、読書啓発を行った。	⑥合理的な配慮について研修を実施、教職員間で連携を図りながら指導の工夫に取り組んでいる。 ⑦朝の活動時間や図書室の利用時間を設け、読書時間を確保した。低学年では読み聞かせの充実を図った。また委員会を中心に「読書郵便」等を実施し、読書啓発を行った。	
--	--	---	---	--	--

2 豊かな心の育成 ・いじめ撲滅のため早期発見・早期対応 ・人権教育・道徳教育の推進 ・自尊感情や自己肯定感を高める学級経営 ・自他の生命を大切にす態度の育成 ・互いを認め合い支え合う仲間づくり ・根気と忍耐力の育成	①いじめ撲滅のための早期発見・早期対応を心がける。 ②すべての教科等で人権感覚を磨き、人権尊重の精神を涵養する。 ③「特別の教科道徳」の時間をはじめ、すべての教科等で道徳教育を展開し、よりよく生きていくための資質・能力を培う。 ④自尊感情や自己肯定感、自己有用感を高める学級経営を推進する。 ⑤自他の生命を大切にす態度を育成する。 ⑥人の長所に目を向け、互いを認め合い、支え合う仲間作りを継続的に行う。	<b>評価指標</b> ①自己評価「日ごろの児童観察を大切にし、児童の些細な変化に気づき、対応している。」90%以上 児童アンケート「わたしは、困ったことがあれば、先生や友達、おうちの人に相談できる。」85%以上 児童アンケート「わたしは、困っている人に声をかけたり助けたりしている。」85%以上 保護者アンケート「学校は、いじめ等困ったことがあればすぐに対応してくれる。」80%以上 ②自己評価「全教育活動において、人権教育の推進に努めている。」90%以上 児童アンケート「わたしは、相手のことを考えて行動できる。」85%以上 保護者アンケート「学校は、いじめ等困ったことがあればすぐに対応してくれる。」80%以上 ③-1自己評価「学年で協力して授業を考え、統一した授業ができています。」90%以上。 ③-2自己評価「道徳の年間計画にそって学年で足並みをそろえて道徳教育を進めることができています。」90%以上 児童アンケート「道徳で学習したことが大切だと思う。」85%以上 保護者アンケート「学校は、一人一人を大切にしながら、教育活動を進めている。」80%以上 保護者アンケート「お子さんは、「ありがとう」「ごめんなさい」と素直に言える。」80%以上 ④-1自己評価「子どもたちの自尊感情、自己肯定感、自己有用感を高める場を設定している。」90%以上 児童アンケート「自分にはよいところがある。」85%以上 保護者アンケート「お子さんは、自分のよいところを知っている。」80%以上 ④-2自己評価「児童をよくほめている。」90%以上 児童アンケート「先生や友達、お家の人から褒められる。」85%以上 ⑤自己評価「学年の年間計画として命の授業を計画して、取り組むことができた。」90%以上 児童アンケート「学校では、自分や友だちなどの命を大切にすることを教えてくれる。」85%以上 ⑥自己評価「児童が互いを認め合い、支え合う仲間づくりの活動を行っている。」90%以上 児童アンケート「わたしは、友達のよいところや素敵などころを知っている。」85%以上 保護者アンケート「お子さんは、他人を思いやる心が育ってきている。」80%以上	<b>評価指数の達成度</b> ①自己評価「日ごろの児童観察を大切にし、児童の些細な変化に気づき、対応している。」100% 児童アンケート「わたしは、困ったことがあれば、先生や友達、おうちの人に相談できる。」81% 児童アンケート「わたしは、困っている人に声をかけたり助けたりしている。」84.1% 保護者アンケート「学校は、いじめ等困ったことがあればすぐに対応してくれる。」79.4% ②自己評価「全教育活動において、人権教育の推進に努めている。」100% 児童アンケート「わたしは、相手のことを考えて行動できる。」84.1% 保護者アンケート「学校は、いじめ等困ったことがあればすぐに対応してくれる。」79.4% ③-1自己評価「学年で協力して授業を考え、統一した授業ができています。」82.8% ③-2自己評価「道徳の年間計画にそって学年で足並みをそろえて道徳教育を進めることができています。」93.1% 児童アンケート「道徳で学習したことが大切だと思う。」95.9% 保護者アンケート「学校は、一人一人を大切にしながら、教育活動を進めている。」77.3% 保護者アンケート「お子さんは、「ありがとう」「ごめんなさい」と素直に言える。」89% ④-1自己評価「子どもたちの自尊感情、自己肯定感、自己有用感を高める場を設定している。」96.6% 児童アンケート「自分にはよいところがある。」87% 保護者アンケート「お子さんは、自分のよいところを知っている。」84.6% ④-2自己評価「児童をよくほめている。」100% 児童アンケート「先生や友達、お家の人から褒められる。」84.6% ⑤自己評価「学年の年間計画として命の授業を計画して、取り組むことができた。」89.7% 児童アンケート「学校では、自分や友だちなどの命を大切にすることを教えてくれる。」95.7% ⑥自己評価「児童が互いを認め合い、支え合う仲間づくりの活動を行っている。」100% 児童アンケート「わたしは、友達のよいところや素敵などころを知っている。」94% 保護者アンケート「お子さんは、他人を思いやる心が育ってきている。」96.4%	<b>(評定)</b> B ①については、取組を継続し、今後とも、児童や保護者とも人間関係を築き、何でも相談できる関係作りが大切である。 ②については、今後も人権教育充実のために計画の見直しをし、内容の充実を図る。 ③については、児童が学習したことを実践できつつある。また、これからも一人一人に目を向けた指導を継続していく。 ④については、学校だけのことでせず、家庭にも呼びかける必要がある。 ⑤については、毎年計画を見直し、学年・児童の実態に合った内容の学習を進める。 ⑥については、今後も継続して行う。 ⑦については、少しずつ、児童が自ら考え行動する様子が見えてきたが、まだ十分ではない。引き続き、継続して取り組んでいく必要がある。また、研修等で情報交換を行い、学校全体で取り組めるよう工夫する。	・命の大切さを校外学習で体験的に学ぶ等、既存の学習機会の中でできることはないか検討・実施を考えてみてはどうか。 ・保護者アンケート「学校は、いじめ等困ったことがあればすぐに対応してくれる。」が役80%と低い。これに関しては、100%でなければならぬのではないか。 ・各教室に子どもたちの笑顔や真剣な表情の写真や友達を思いやる言葉がたくさん掲示されている。子どもたちがいつでもそれらを見ることができ、自分の居場所であり、安心できる空間であり、仲間を感じとれる場所であると認識できるだろうと感じた。	・児童と関わる機会を増やし、いち早く異変に気付く。そして、問題が発生したときは、教職員、保護者、関係機関等、連携しながら対応する。 ・人権尊重の精神をすべての教科等で尊重できるように意識していく。 ・道徳の時間、考えたことや思ったことを生活に実践する力を高められるようにしていく。 ・引き続き、児童の自尊感情、自己肯定感、自己有用感を高められるような場を設定し、声かけをし、励ますようにする。 ・体験的な活動を通して、命を大切にす態度の育成を目指す。 ・引き続き取組を行っていく。また、研修等で取り上げ、学校全体でも情報共有を行う。 ・委員会活動等を生かし児童が主体となって取り組める方法を考えていく。
--	--	---	--	--	---	---

⑦何事にも最後までやりとげる掃除や当番・委員会活動，ボランティア活動等，根気と忍耐力を培う。

⑦-1自己評価「清掃活動やボランティア活動等に主体的に取り組む児童が増えている。」90%以上  
 児童アンケート「当番・委員会活動等，自分の役割に責任をもって最後まで取り組んでいる。」85%以上  
 児童アンケート「学校や学級をよりよくするために，自分から進んでボランティア活動やお手伝いなどをしている。」85%以上  
 保護者アンケート「お子さんは，やるべき事を最後まで取り組むことができる。」80%以上

⑦-2自己評価「教師自らが清掃活動に取り組み，お手本となっている。」90%以上

⑦-3自己評価「他クラス，他学年と活動の工夫について情報交換を行っている。」90%以上

⑦-1自己評価「清掃活動やボランティア活動等に主体的に取り組む児童が増えている。」89.7%  
 児童アンケート「当番・委員会活動等，自分の役割に責任をもって最後まで取り組んでいる。」91.8%  
 児童アンケート「学校や学級をよりよくするために，自分から進んでボランティア活動やお手伝いなどをしている。」73.1%  
 保護者アンケート「お子さんは，やるべき事を最後まで取り組むことができる。」83%

⑦-2自己評価「教師自らが清掃活動に取り組み，お手本となっている。」89.7%

⑦-3自己評価「他クラス，他学年と活動の工夫について情報交換を行っている。」96.6%

活動計画

- ①年に2回アンケートを実施し，いじめの早期発見・早期対応に努める。
- ②各学年の人権教育担当の教員中心に，人権教育年間計画にそった人権教育を進める。
- ③各学年の道徳教育担当教員中心に，道徳の年間計画にそった道徳教育を進める。
- ④集団の中で，「任せる，褒める，認める」ような場を設定する。また，活動を振り返る場も設定する。
- ⑤各学年で「生命」の授業を実施し，生命を尊重する心を養う。
- ⑥学年実態に応じた仲間作りの活動を設定している。
- ⑦清掃活動や当番等の意義を知らせる。また教師自らが行って見せたり，仕方を工夫して教えたりする。

活動計画の実施状況

- ①アンケートを実施し，いじめを早期発見し，対応することを心がけている。会議を開き，情報の共通理解も図ることができた。
- ②各学年の人権教育担当教員を中心に人権教育を進めることができた。
- ③各学年の道徳教育担当教員を中心に道徳教育を進めることができた。
- ④児童の自尊感情，自己肯定感，自己有用感，を高める場，振り返る場を設定している。また，教員が褒めることを意識して児童と接するようになってきている。
- ⑤命の授業を計画し，各学年に応じた授業に取り組むことができた。
- ⑥児童が互いに認め合い，支え合う仲間作りが行える場を各学級が工夫して設けることができた。
- ⑦高学年がボランティアを毎日行い，その様子が学校全体へと広がっている。また，昨年度から委員会で「ゼロゼロの日」をつくり，ゴミゼロ，おしゃべりゼロで清掃活動が行えるように工夫している。児童が自ら考え行動する様子が増えてきた。

評価指標

- ①自己評価「各学年の発育発達段階の特性と各運動量域の教材について理解が深まるように自己研修を行っている。」90%以上  
 児童アンケート「体育の授業では自分のめあてをもって楽しく体を動かしている。」85%以上  
 保護者アンケート「お子さんは，体育の授業や運動することが好きである。」80%以上
- ②-1自己評価「外遊びをするように啓発している。」90%以上

評価指数の達成度

- ①自己評価「各学年の発育発達段階の特性と各運動量域の教材について理解が深まるように自己研修を行っている。」86.2%  
 児童アンケート「体育の授業では自分のめあてをもって楽しく体を動かしている。」91.4%  
 保護者アンケート「お子さんは，体育の授業や運動することが好きである。」82.6%
- ②-1自己評価「外遊びをするように啓発している。」93.1%

(評定)

B

(所見)

①については，アンケートでは，体育の授業が好きな児童は評価指標を上回る結果となっている。

・体育的行事は，運動が得意ではない子は参加しにくいいため，まず「お試し体験会」のような日を設け，気軽に参加できるようにしてはどうか。  
 ・朝食を摂取していない子は把握しているか。朝食を摂取していない子・摂取したくても保護者の都合でそれができない子が心配される。

・来年度も引き続き，個々のめあてを設定し，楽しく体育の授業に取り組むことができるような指導のための研修を行う。  
 ・外遊びに意欲がもてるような活動や声かけを行い，時間や場所の確保にも努める。  
 ・体育的行事の周知を徹底し，参加を呼びかけた

3 健康な心と体の育成

- ・体力の向上
- ・基本的な生活習慣の確立
- ・家庭と連携した食育の推進
- ・充実感や達成感の体感

①運動の楽しさや面白さを感じることでできる体育授業を工夫する。

②外遊びや徒歩通学を積極的に奨励する。

③ 体育的行事への積極的な参加を呼びかける。

④ 学校給食を中心に食育を推進し、健康の保持推進と体力の向上を目指し、楽しく明るい生活を営む態度を養う。

⑤ 「早寝・早起き・朝ごはん」の徹底、生活習慣の育成を図る。

⑥ 仲間と協力することの大切さや汗を流して働くことのすばらしさを学び、最後までやり遂げる充実感や達成感を体感させる。

②-2 自己評価「徒歩通学ができるように啓発している」90%以上  
児童アンケート「わたしは、外遊びや徒歩通学をしている。」85%以上  
保護者アンケート「お子さんは、外遊びや徒歩通学をしている。」80%以上

③ 自己評価「体育的行事への参加を呼びかけている。」90%以上

④-1 自己評価「生きた教材『給食』を活用している。」90%以上

④-2 自己評価「食育タイムを活用し、食に関する指導の工夫をしている。」90%以上  
児童アンケート「わたしは、給食の時間に感謝の気持ちをもって、好きなものも苦手なものも食べることができている。」85%以上  
保護者アンケート「お子さんは食べ物や作ってくれた人に感謝して食事をする事ができる。」80%以上

⑤-1 自己評価「早寝・早起き」をするように啓発をしている。」90%以上

⑤-2 自己評価「朝ごはん」を食べるように啓発をしている。」90%以上  
児童アンケート「わたしは、『早寝早起き・朝ごはん』ができている。」80%以上  
保護者アンケート「お子さんは、基本的な生活習慣が身についている。」80%以上

⑥ 自己評価「当番や係等の仕事を行う場を設定し、最後までやり遂げられるよう、指導の工夫をしている。」90%以上

活動計画

- ① 各運動領域の教材研究を行い、学年の発達段階に応じた体育授業の実践を行うためにメンター制をいかした研修を適宜行う。
- ② 感染症対策を講じながら、積極的に外遊びができるように声をかける。同様に徒歩通学ができるよう呼びかける。
- ③ 体育の授業で積極的に取り組んでいる児童を中心に体育的行事への参加を促す。
- ④ 児童の健康な心身の育成のため、生きた教材を生かした食に関する指導の充実を図る。食べ物を大事にし、感謝して食事ができるようにする。
- ⑤ 保健の学習や生活アンケートを行うなど、「早寝早起き朝ごはん」の意識づけを図る。睡眠と食事の重要性について、教職員で共通理解を図る。
- ⑥ 「<sup>ゼロ</sup>ゴミ<sup>ゼロ</sup>声<sup>ゼロ</sup>」の「<sup>ゼロ</sup>〇<sup>ゼロ</sup>そうじの日」を設け、集中して無言清掃に取り組み、最後までやり遂げられるようにする。

②-2 自己評価「徒歩通学ができるように啓発している」89.7%  
児童アンケート「わたしは、外遊びや徒歩通学をしている。」92.3%  
保護者アンケート「お子さんは、外遊びや徒歩通学をしている。」80%

③ 自己評価「体育的行事への参加を呼びかけている。」86.2%

④-1 自己評価「生きた教材『給食』を活用している。」96.6%

④-2 自己評価「食育タイムを活用し、食に関する指導の工夫をしている。」82.8%  
児童アンケート「わたしは、給食の時間に感謝の気持ちをもって、好きなものも苦手なものも食べることができている。」81.6%  
保護者アンケート「お子さんは食べ物や作ってくれた人に感謝して食事をする事ができる。」81.4%

⑤-1 自己評価「早寝・早起き」をするように啓発をしている。」96.6%

⑤-2 自己評価「朝ごはん」を食べるように啓発をしている。」93.1%  
児童アンケート「わたしは、『早寝早起き・朝ごはん』ができている。」76.9%  
保護者アンケート「お子さんは、基本的な生活習慣が身についている。」89.1%

⑥ 自己評価「当番や係等の仕事を行う場を設定し、最後までやり遂げられるよう、指導の工夫をしている。」93.1%

活動計画の実施状況

- ① 発育発達段階の特性と各運動領域の教材について理解が深まるよう自己研修を行ったりメンター研修を行ったりすることができた。
- ② 感染症対策を講じながら、外遊びや徒歩通学の啓発を行うことができた。
- ③ 体育の授業に積極的な児童を中心に体育的行事への参加を促し、様々な行事に参加することができた。
- ④ 食育動画教材や食育タイムなど活用することができた。
- ⑤ 学期始めの生活リズムの崩れやすい頃や保健の授業などの機会を生かして「早寝早起き朝ごはん」の啓発を行うことができた。
- ⑥ 保健委員会を中心に呼びかけを行い、毎月「10日、20日、30日」は学校全体で無言清掃に取り組み、集中して清掃に取り組むことができた。

②については、外遊びの啓発が十分であったことや運動場使用の分散の制限がなくなったこと、また体育委員会の外遊びへの呼びかけなどから、外遊びや徒歩通学をしている児童が評価指標を上回る結果となっている。  
③については、体育行事が元に戻り、参加する機会は増えたが、参加児童は集まりにくく、参加不参加が二極化している。  
④については、様々な感染症が流行り、給食時間に感染防止対策を行ったこともあり、指導が至らなかった面がある。また、完食を目指して残さず食べる児童が増えたが、あまり食べられない児童もいるため、給食指導が難しい場面もある。今後の課題として、校内の食育推進委員会等で共通理解を図り、引き続き取り組んでいく。  
⑤については、教師や保護者アンケートの結果から、『早寝・早起き・朝ごはん』の啓発は評価指標を上回る結果だったが、児童アンケートには反映されていない結果となった。今回、児童アンケートでは『早寝・早起き』と『朝ごはん』を一緒にしたので、結果が少し下回ったのかもしれない。  
⑥については、無言清掃の日を設けるなど、係・当番の仕事を行う場の設定や指導の工夫をしっかりと行っており、きちんと行えた児童も多く見られた。

・学校HPを利用し、子どもたちの人気メニュー等学校給食の現状をお知らせするとい  
・残食について、残食のその後を学ぶ機会を取り入れてみてはどうか。SDGsにも触れることができ、自分自身の身近な問題として捉えやすくなるのではないかと  
・常時、給食指導を行い、食育推進委員会が中心となって、啓発を続けていく必要がある。  
・無言清掃の日を引き続き設定し、今後は普段の清掃でも無言で清掃することができるようにしていく。

り壮行会などで参加児童の活躍の場を設定する。

<p>4 個に応じた特別支援教育と生徒指導</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・規律や規範意識の向上</li> <li>・積極的で組織的な児童理解の推進</li> <li>・一人一人の実態に応じた指導の工夫</li> <li>・子どもたちの長所の伸長</li> <li>・校内支援委員会及び支援体制の充実</li> <li>・教職員の研修の充実</li> <li>・保護者への啓発</li> </ul>	<p>①子どもたちが学校で仲間とともに生き生きと楽しく学べるよう支援する。</p> <p>②積極的で組織的な児童理解を推進する。</p> <p>③規律や規範意識（あいさつ・言葉遣い・無言清掃等）の高揚に努める。</p> <p>④一人一人のニーズに応じた指導支援をさらに工夫する。</p> <p>⑤特別支援学級と交流学級との連携を密にして子どもの居場所を確保する。</p> <p>⑥特別支援教育コーディネーターを中心に、校内体制のさらなる整備をすすめる。また、関係機関等との連携や保護者への啓発等も積極的に図る。</p>	<p>評価指標</p> <p>①自己評価「児童の特性に応じた効果的な方法を検討し、実践している。」90%以上 児童アンケート「学校生活が楽しくなるように、先生がいろいろと考えてくれている。」85%以上 保護者アンケート「学校は子どもたちの特性に合わせた教材を使い指導をしている。」80%以上</p> <p>②自己評価「必要に応じて教職員間で連絡や相談をし、児童理解に努めている。」90%以上 児童アンケート「いろいろな先生から、よくほめてもらえる。」85%以上 保護者アンケート「学校は全体で子どもたちの指導にあたっている。」80%以上</p> <p>③自己評価「児童の手本となるように教師が率先して、挨拶や清掃活動を行っている。」90%以上 児童アンケート「友だちや先生といつも元気なあいさつができています。」85%以上 保護者アンケート「学校は元気な挨拶をしたり、きまりを守ったりすることをきちんと指導している。」80%以上</p> <p>④自己評価「児童の実態を捉え、個に応じた指導方法を工夫している。」90%以上 児童アンケート「先生は分かりやすい方法で、勉強を教えてくれる。」85%以上 保護者アンケート「学校は子どもや家族の願いを学校での指導に生かしている。」80%以上</p> <p>⑤自己評価「交流学級と支援学級の担任間で、効果的に情報交換をしている。」90%以上 児童アンケート「なかよし学級や交流学級で、みんながなかよく勉強している。」85%以上 保護者アンケート「社会の中では、いろいろな立場の人が生活していることを子どもたちに学ばせている。」80%以上</p> <p>⑥-1自己評価「特別支援コーディネーターやスクールカウンセラーと連携して指導している。」90%以上 ⑥-2自己評価「外部機関とも積極的に相談し、保護者をつなぐ役割を果たす。」90%以上 児童アンケート「困ったときは、いろいろな先生に相談して、問題を解決している。」85%以上 保護者アンケート「子どもに関する相談をしたり、各種の相談機関に相談したりするための情報を発信している。」80%以上</p>	<p>評価指数の達成度</p> <p>①自己評価「児童の特性に応じた効果的な方法を検討し、実践している。」95%以上 児童アンケート「学校生活が楽しくなるように、先生がいろいろと考えてくれている。」91% 保護者アンケート「学校は子どもたちの特性に合わせた教材を使い指導をしている。」81%</p> <p>②自己評価「必要に応じて教職員間で連絡や相談をし、児童理解に努めている。」95%以上 児童アンケート「いろいろな先生から、よくほめてもらえる。」85% 保護者アンケート「学校は全体で子どもたちの指導にあたっている。」80%</p> <p>③自己評価「児童の手本となるように教師が率先して、挨拶や清掃活動を行っている。」95%以上 児童アンケート「友だちや先生といつも元気なあいさつができています。」93% 保護者アンケート「学校は元気な挨拶をしたり、きまりを守ったりすることをきちんと指導している。」94%</p> <p>④自己評価「児童の実態を捉え、個に応じた指導方法を工夫している。」95%以上 児童アンケート「先生は分かりやすい方法で、勉強を教えてくれる。」86% 保護者アンケート「学校は子どもや家族の願いを学校での指導に生かしている。」70%</p> <p>⑤自己評価「交流学級と支援学級の担任間で、効果的に情報交換をしている。」95%以上 児童アンケート「なかよし学級や交流学級で、みんながなかよく勉強している。」84% 保護者アンケート「社会の中では、いろいろな立場の人が生活していることを子どもたちに学ばせている。」89%</p> <p>⑥-1自己評価「特別支援コーディネーターやスクールカウンセラーと連携して指導している。」93% ⑥-2自己評価「外部機関とも積極的に相談し、保護者をつなぐ役割を果たす。」86% 児童アンケート「困ったときは、いろいろな先生に相談して、問題を解決している。」80% 保護者アンケート「子どもに関する相談をしたり、各種の相談機関に相談したりするための情報を発信している。」79%</p>	<p>(評定)</p> <p>B</p> <p>①楽しく生き生きと学べるように効果的な方法を工夫することができ、児童も楽しさを実感できていた。</p> <p>②周りの人から褒めてもらうことで自分の良さを自覚し、やる気が出る児童が増えている。</p> <p>③全校朝会で呼びかけたり、教師が手本となるような挨拶を続けたりすることで定着してきた。集団行動でのきまりも守れていた。</p> <p>④個に応じた教材や指導方法の工夫について、よく実践できていた。</p> <p>⑤児童によって交流時数の差はあるが、学習の場の工夫により学び合うことができた。</p> <p>⑥外部の連携機関とも連絡を取り、効果的な助言等を得ながら課題の解決に向けた取り組みができていた。</p>	<p>・個々に応じた丁寧な対応、活発な情報交換がなされていると感じる。</p> <p>・今後も保護者や関係機関との連携や連絡を継続してほしい。</p>	<p>・行事や体験的活動を増やし、どの子も活躍できる場を設定する。</p> <p>・タブレットを活用する等、個人学習やグループ学習の場を設定し、指導方法を工夫する。</p> <p>・特別支援学級と交流学級の担任間で連携を密にする。学年会に特別支援学級担任が参加し、情報交換する。家庭との連携を深め、信頼関係を築く。</p>
		<p>活動計画</p> <p>①一人一人の特性に応じて学習方法を選び、指導方法を工夫する。</p> <p>②定期的に児童に関する情報交換の機会を設け、共通理解を図る。</p> <p>③場に応じた挨拶や言葉遣いを身につけ、ルールを守る態度を育てよう教師が手本を示す。</p> <p>④児童や保護者の願いを受け止めながら指導計画を立て、実践を進める。</p> <p>⑤効果的な連携方法を工夫し、児童の成長を多面的に見守り指導する。</p>	<p>活動計画の実施状況</p> <p>①個々の特性を考慮しながら学習方法や指導方法を選択し、教材を工夫しながら指導した。</p> <p>②放課後の打ち合わせ時に児童に関する情報交換を行い、交流学級とも連携するようにした。</p> <p>③気持ちの良い挨拶や正しい言葉遣いについて、児童の発達段階に応じて身につけられるように教師が手本を示したり、できている子を賞賛することで、実践態度をのばすことができた。</p> <p>④「個別の支援計画」や「個別の指導計画」を基に児童の状況に合わせてながら実践をした。</p> <p>⑤教師間で調整し、複数の教師で児童に関われるようにした。他の教師からの情報を生かすこと</p>			



		⑥教育相談を有効に活用し、不適応等の軽減を図る。また、外部機関と連携し、児童や保護者のもつ課題の解決を図る。	で、児童の成長により気付くことができた。 ⑥必要に応じて教育相談を活用し、児童や保護者の悩みや不適応等への対処を進めた。外部機関とも連携し、課題解決を図った。			
5 保護者・地域から信頼される学校  ・教育活動の公開や情報発信の積極的な推進  ・地域に根ざした教育活動の推進  ・子どもの安全安心確保と健全育成等の推進  ・コンプライアンスの推進	①「学年だより」「学校だより」やマチコミ・HP等を通じて、学校の情報を積極的に発信する。  ②地域の「人・もの・こと」を活用する。  ③登下校の安全の見守りや防犯対策等、子どもたちの安心安全を第一に考えた取組を推進する。  ④避難訓練や安全点検・安全指導を適宜実施し、防災教育・安全教育の徹底を図る。  ⑤多角的な観点から、コンプライアンス違反のリスク要因を解消するための研修と点検を強化し、全職員にコンプライアンスを浸透させる。	<b>評価指標</b> ①自己評価「学級の子どもの成長やがんばりの様子を保護者へ伝えている。」90%以上 保護者アンケート「学校は、「学年だよりやHP、マチコミ等を通して、学校の情報を発信している。」80%以上 ②自己評価「地域の施設やゲストティーチャーの活用をした。」90%以上 ③自己評価「登下校時、交通のルールを守ったり、あいさつをしたりするように指導できた。」90%以上 児童アンケート「登下校時、交通のルールを守ったり、あいさつをしたりできた。」85%以上 保護者アンケート「お子さんは、交通ルールを守って登下校をしている。」80%以上 ④自己評価「災害時の避難の仕方についての確に指導できた。」90%以上 児童アンケート「素早く、安全に避難する方法を知っている」85%以上。 保護者アンケート「お子さんは、学校で自然災害が起こったときに、どのように避難したらよいか理解している。」80%以上 ⑤自己評価「法令遵守ができた。」100%	<b>評価指数の達成度</b> ①自己評価「学級の子どもの成長やがんばりの様子を保護者へ伝えている。」96% 保護者アンケート「学校は、「学年だよりやHP、マチコミ等を通して、学校の情報を発信している。」96% ②自己評価「地域の施設やゲストティーチャーの活用をした。」86% ③自己評価「登下校時、交通のルールを守ったり、あいさつをしたりするように指導できた。」90% 児童アンケート「登下校時、交通のルールを守ったり、あいさつをしたりできた。」93% 保護者アンケート「お子さんは、交通ルールを守って登下校をしている。」98% ④自己評価「災害時の避難の仕方についての確に指導できた。」100% 児童アンケート「素早く、安全に避難する方法を知っている」91%。 保護者アンケート「お子さんは、学校で自然災害が起こったときに、どのように避難したらよいか理解している。」70% ⑤自己評価「法令遵守ができた。」100%	(評定)  <b>B</b>	・学校HPの更新は、いつも楽しみにしている。継続と頻回の更新を期待する。  ・地域との連携がさらに強化されることを期待する。  ・子どもたちの元気な挨拶が良くなっている。今後も継続して指導を続けてほしい。 ・遊びながら登下校している子を見かける。危険であることをしっかり指導してほしい。 ・児童アンケート「素早く、安全に避難する方法を知っている」91%であることから、「災害時の避難」に力を入れているのがよく分かる。	・コロナ感染症等の発生状況をみながら、これまでに交流できなかった施設や人(高齢者や幼児等)との交流もしていきたい。  ・HPの更新頻度をさらに上げ、地域や保護者へ発信出来るようにしていきたい。  ・災害時の避難訓練等については、保護者や地域と連携を図れるようにしていきたい。
		<b>活動計画</b> ①「学年だより」で保護者に学年の様子や必要な情報を発信する。 ・マチコミを使って、必要な情報を発信する。 ・「学校だより」やHP等を通じて、学校の情報を保護者や地域の人に発信する。 ②学習内容に応じて施設やゲストティーチャーを有効に活用する。 ③毎月の「学校安全の日」の交通指導において、安全な登校の指導を行い、その様子を記録にまとめておく。 ④避難訓練を適宜実施したり、安全点検・安全指導を毎月1回実施したりする。 ⑤コンプライアンス研修を適宜実施したり、コンプライアンス違反がないか点検を毎月1回実施したりする。	<b>活動計画の実施状況</b> ①「学年だより」「学校だより」は、月初めに出し、生活の注意点、持ち物の確認、行事の報告、学習の状況等の情報等を保護者に発信している。HPを活用し、行事や各学年の様子などを頻りに発信することきた。 ②教科の担当や学年で特別教室や教材室を整理し、活用しやすくした。また、必要に応じて文化の森を活用したり、ゲストティーチャーを招いたりした。 ③毎月の「学校安全の日」の交通指導において、安全な登校の指導を行い、その様子を記録にまとめ、必要に応じて共通理解することができた。 ④避難訓練を適宜実施し、災害時の安全な行動を確認した。また、安全点検・安全指導を毎月1回実施した。 ⑤コンプライアンス研修を適宜実施したり、コンプライアンス違反がないか個々に点検・確認を適宜行った。	(所見) ①については、これからもHPの更新頻度を維持し、地域や保護者へ発信出来るようにしていきたい。「学校だより」「学年だより」については、来年度も継続していく。  ②については、来年度は、コロナ等で交流できなかった施設や人(高齢者や幼児等)との交流もしていきたい。  ③については、来年度も今年度同様に継続していく。  ④については、今年度のように、いろいろな場合や場面を想定した避難訓練を実施するとともに、家庭でも災害時の避難の仕方について理解が深まるように情報発信や啓発をしていく。  ⑤については、来年度も今年度同様に継続していく。		
6 研修の充実と協働体制の強化  ・未来を見据えた広い視野の教育活動  ・教職員の力量形成  ・「チーム八南」で、補充・協働し合う体制の継続	①一人一台タブレットを効果的に活用した授業づくりを工夫する。  ②職務研修や研究授業を効果的に活用し、教職員のさらなる授業力の向上を図る。  ③「チーム八南」で、補充・協働し合う体制を継続させ、組織での対応に努める。「報告・連絡・相談・確認」	<b>評価指標</b> ①自己評価「タブレットの効果的な活用方法を考え、授業をしている。」90%以上 ②自己評価「主体的に研修に参加し、実践に生かしている。」90%以上 ③自己評価「必要な情報を共有することができたか。」90%以上 ④自己評価「「自分の時間」「ゆとりの時間」を創造できたか。」90%以上	<b>評価指数の達成度</b> ①自己評価「タブレットの効果的な活用方法を考え、授業をしている。」62% ②自己評価「主体的に研修に参加し、実践に生かしている。」93% ③自己評価「必要な情報を共有することができたか。」100% ④自己評価「「自分の時間」「ゆとりの時間」を創造できたか。」72%		・タブレット学習は、子どもが興味を持ちやすく、学習内容によっては、とても効果的だとは思いますが、小学生であり多くの時間触れる必要はないと思う。  ・研修で学んでいることを保護者・子どもたちはあまり知らない。研修した内容等を学年だよりや学校HPで発信していくといいのではないかと。	

<p>・ワークライフバランスを考えた超過勤務時間の改善</p>	<p>④ワークライフバランスを考え、健康で楽しい働き方を工夫する。</p>	<p>活動計画</p>	<p>活動計画の実施状況</p>	<p>(所見)</p>	<p>・校内の働き方改革推進委員会を中心に働きやすい環境や状況を整えていく。</p>
		<p>①校内研修，学年会等の時間を利用して，学年で効果的にタブレットが活用できる授業計画を立て，実践する。</p> <p>②公開授業等で教員間の学び合いの場を設定し，研修で得たことを実践に生かす。</p> <p>③学年主任，管理職，各担当主任等と必要な情報の共有を行う。 「報告・連絡・相談・確認」</p> <p>④全教職員がやりがいをもって笑顔で子どもと向き合うため，「自分の時間」「ゆとりの時間」を創造する。</p>	<p>①校内研修でMetamojiを効果的に使った授業づくりについて意見交換を行ったり，実際に検証したりした。しかし，日常的にタブレットを効果的に使うことには，環境面やスキル面等の様々な面で課題が残る。</p> <p>②定期的に授業を行い，教員間の学び合いの場を設定することで，意見交換をしたり，教え合ったりする場面が見られた。</p> <p>③学年内や学年間での報告や相談，生徒指導担当やコーディネーターの先生との連携を意識しながら教育活動に取り組むことができた。経験の浅い先生方も，何かあったら学年主任や管理職に相談する意識が定着してきている。</p> <p>④多忙な中で，どうしても遅くなってしまうこともあるが，できる限り早く退勤できるように工夫や声かけをし，ゆとりの時間がもてるようにしている。</p>		

「評価」の基準 A：十分達成できた B：おおむね達成できた C：達成できなかった